

新型コロナウイルスが

日本で確認された当初から現在まで

診療と研究に従事するほか、

誰もが分かりやすい解説と啓発活動に尽力する

大阪大学の忽那賢志先生。

新春対談と題して、

医療の第一線で奮闘する忽那先生と

横尾俊彦市長が、ワクチン接種の有効性や

コロナ禍でも社会活動を取り戻していくための

道筋などを熱く語り合いました。



特集1

多久市長

よこおとしひこ  
**横尾 俊彦**

## Profile

新型コロナウイルス対策の一つとしてワクチン接種センターを設置し、正確な情報収集・発信に努め迅速な対応に尽力。県内10市のうち接種率1位に多久市を導いた。

厚生労働省 社会保障審議会 医療保険部会委員。

現在新たな公立病院設立に向け、感染症対策も織り込みながら取り組んでいる。

ご協力を得やすい環境があります。

**忽那** 大切なことですね。現在流行しているオミクロン株は、感染者が重症化する頻度は減りましたが、感染者そのものが極めて多く、結果として重症化する人や亡くなる人の数が増えています。だからこそ、感染リスクを大きく下げ、重症化を防ぐ効果があるワクチンの接種は重要です。

**市長** そうですね。多久市では集団接種会場の「多久市コロナワクチン接種センター」で戸惑われないように接種の流れをシミュレーションしたり、市ホームページでも接種までの流れを確認できる動画を公開したりしています。そのほか、接種後の待機所で副反応のことなどを説明するデジタルサイネージの設置もしています。オミクロン株対応ワクチンに切り替わったこともあり、副反応については心配される人が多いです。  
**忽那** 確かにこれまでのワクチンでもオミクロン株対応ワクチンでも副反応は起こることがありますが、従来のワクチンと比べて副反応が増えるということはありません。ですからぜひ、感染と重症化を防ぐためにワクチン接種をしていただきたいです。

### 回復後も適切なケアを

**市長** 私の身近に、感染後味覚が鈍くなって食事が遠のいたり筋力が衰えたりして「コロナフレイル」の症状が出た人がいました。こうしたものは、新型コロナウイルスの後遺症と捉えていいのでしょうか？

**忽那** そうですね。回復してからも筋肉痛がある、だるさが続く、集中力がもたない、物覚えが悪くなるといった症状が続くと言う人が若い人を